

おれんじの屋根

施設長より

「等身大の姿」

前回、「共生社会」について少しだけ述べました。今回は、その続きということになるでしょうか。

今月はじめに、県の障がい児・者親の会連合会が主催する「しあわせについてのつどい」での作文発表に関わる機会がありました。

全部で54点の作文が寄せられましたが、小学部児童から高等部生徒さんまで、年齢や学年などの違いはあるものの、どの作文からも、その人の真っ直ぐな思い、特に、今回のテーマが「ありがとう」ということで、感謝の気持ち、優しい心、温かい心がダイレクトに伝わってくるものばかりで、当日、会場にいた人たちも、温かな雰囲気につつまれ、とてもいいひとときを過ごすことができたことと思います。

作文発表の後に、講評を述べました。以下は、そのときに述べたことの一部です。

○「共生社会」実現に向けての取組の一つに

「共生社会」の実現のためには、障がいのある人自身が、社会に対して、もっともって声を上げ、ありのままの姿を見せていく必要があると思っています。

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障がいのある人たちのスポーツでの活躍が注目され、マスコミなどでたくさん取り上げられるようになったのはいいことだと思います。

ですが、これだけでなく、障がいのある人が、日頃どんな姿で生活し、どんなことを思っているのか、今思っていることややってみたいこと、悩んでいることなど、「等身大の姿」をもっと社会に発信する必要があると思っています。知っていれば何でもないことでも、知らないことで理解が進まなかったり、まちがって理解されることもよくあります。まずは障がいのある人の等身大の理解に向けて、それぞれが社会にアピールすることが大切なと思っています。

今回の作文は、冊子になるということなので、障がいのある人たちの等身大の姿を社会に向けて発信することの一助になったらいいなと思っています。

ここで作文の内容を述べる余裕はありませんが、どの作文からも、今この時代を生活している、日々の生活の中で喜びや楽しみを見出し、さまざまな悩みや苦しみも抱えながらも懸命に生活している等身大の姿が生き生きと伝わってきます。

障がいのある人もない人も共に生きる「共生社会」は、誰かを特別視するのではなく、“みんな同じように生活している”という、極めて単純明快な共通認識から始まるのではないかと、作文の発表を聞きながら思いを強くしたところです。

松本主任の 北米研修記

第2弾の今回は研修地のひとつ、ミネソタでの研修、視察をご紹介します。

研修では、ミネソタ、シアトルの行政機関、グループホーム、障がい者支援施設、在宅サービスの自宅訪問、自立支援センター、入所施設、ヘルパー派遣会社を視察した。その中でも印象に残ったミネソタARCをご紹介します。

「アメリカ版親の会」だと思って見学したミネソタ州ARC（親のネットワークと情報提供のために始まった親の会）の親の会でありながら、行政機関のような役割を果たしている。

日本では親の会というと、行政に要望を出したり障がい者の権利を守るために啓発活動を行ったり、自ら施設を作ったりといった機能が思いつく。それに対して、アメリカ版は「住宅の提供」「被虐待者のための代弁者の育成」「将来の生活を見据えた個別プログラムの作成」「高校卒業後の職業訓練」があり、必要に応じて国に対して、テレビや情報誌を活用してサービス拡充の訴えを行っている等、国に希望を訴え改善を願う日本の親の



ウィッシュツリー
(将来の夢を記入)



研修参加者全員で!

会、自らが行政機関の役割を担いながら改善を繰り返し、サービス拡充を国に訴えていくアメリカの親の会。背景となる社会や文化の違い、日本とアメリカの「障がい」についてのとらえ方の違いを感じた。アメリカでは、ミネソタARCが障がい福祉事業を進めているが、実際に運営費として、国から提供されるのは全体の1割程度。残りの活動資金はARCが、医療機器の中古販売やイベントを開催しその募金で賄っている。自分たちの活動に必要なお金をどう捻出していくか、育成会としても考えていく必要があると感じた。

アメリカの支援体制の中では、難病や重度の障がいによって生活に制約がある方たちも健常者と変わらぬ生活ができていた。アメリカでは、障がいのある方も普通学級に進学し、地域で過ごせるような支援体制が整っており、区別されない社会「共生社会」を肌で感じた。

日帰り旅行

平成30年11月7日(水)に利用者、職員総勢54名で、佐賀県立宇宙科学館と武雄物産館に行ってきました。

午前9時に貸切バスでしようぶの里を出発、トイレ休憩を挟みながら11時30分頃に佐賀県立宇宙科学館に到着しました。《地球発見ゾーン》《宇宙発見ゾーン》《佐賀発見ゾーン》の展示ゾーンを8つのグループに分かれ見学しました。

昼食は科学館から車で10分程のところにある武雄物産館で「佐賀牛すき焼き鍋」をいただきました。お肉もやわらかく、利用者の皆さんもとてもおいしそうに食べられてました。



帰りのバスの中ではカラオケやイントロ当てクイズで賑わいました。

好天に恵まれた秋の一日。ケガや事故、体調不良者もなく、楽しい日帰り旅行でした。



給食室より

☆11月のイベントメニュー☆

- 11月 1日 誕生会ケーキ、コーヒー又は紅茶
- 11月12日 リクエストメニュー
カツ丼、豆腐チゲスープ
キャベツの浅漬け、プリン
- 11月20日 リクエストメニュー
手作りホットドッグ、フリ風サラダ
コーンポタージュ、杏仁豆腐
- 10月23日 手作りおやつ



今さらですが… リクエストメニューとは！
毎週木曜日の午前中に、里会が行われています。里会では今後の予定や希望など、利用者さんが発表します。その時に出る献立へのリクエストを給食室に持ち帰り、メニューを組み立て利用者さんの特に喜ぶ食事を提供する日、それがリクエストメニューです！



管理栄養士 米村

医務室より



《インフルエンザに備えましょう！》
先日プリントでご案内しましたとおり、11月21日にインフルエンザの予防接種を実施しました。

《インフルエンザを予防しましょう！》

- ・流行前の予防接種
- ・手洗い
- ・湿度を保つ
- ・人混みを避ける



大切です！

《せきエチケットを守りましょう！》

- ・咳やくしゃみが続く時は、必ずマスクをする。
- ・早めの受診で人にうつさない。

☆急な発熱、咳やのどの痛み、全身のだるさ等に症状があった場合は受診しましょう！
(発熱直後は検査でインフルエンザ反応が出ないことがあります。)

年末年始を楽しく過ごすために
みんなで備えていきましょう！

看護師 田中

毎年恒例の《クリスマス忘年会》が12月21日(金)にホテル日航内アソシエッドで行われます。一年間、健康で過ごせたことに感謝しつつ、おいしい料理をいただき、楽しい一日を過ごしましょう！

～編集後記

11月も、あっという間に過ぎようとしています。年々、月日の経つのが早く感じます。これから、クリスマスや忘年会と飲み過ぎ、食べ過ぎに注意が必要な季節ですね^_^;

～第19号～

平成30年11月25日発行
発行元 しようぶの里
熊本市西区小島9丁目14-58
TEL (096) 311-4588

